宗教遺産をめぐる真正性
―宗教遺産テクスト学の発展的展開―

国際
シンポジウム

2023年3月30日（木）13：00～17：50
2023年3月31日（金）10：00～11：40、12：40～18：35

オンライン開催（Zoomウェビナー）
参加申込：こちらのURLからお申し込みください
https://forms.gle/MrTsGFSz9Tiq5GAfA
申込締切：3月27日（月）

シンポジウムの趣旨

ニュースなどの情報、データ、モノ、経験や感情、果ては人間そのものに至るまで、現代ほど真正（オーセンティック）であることが希求される時代はないかもしれない。だが、そもそも真正であるとは、どういうことなのか。これは今一度立ち戻って考えてみるに値する問いだろう。真正性が重要となるのは、それが何らかの価値（歴史的・倫理的・経済的・芸術的価値など）と結びつくからだが、真正性や価値は個々の対象に物理的に内在しているわけではない。また真正性についての考え方も歴史的・文化的に多種多様で多声的なものであり、絶対的な基準などあり得ないのではなかろうか。そこでとくに信じることに重きを置く宗教における真正性が何であったかを問うことには、大きな意味があるにちがいない。本シンポジウムでは、他領域の研究者も加わって議論の枠を広げつつ、テクストや美術・建築などの宗教遺産の具体的事例にもとづき、真正性をめぐる容易に答えの得られない様々な問題について思考していきたい。

3/30（木）

総合司会：梶原義実（名古屋大学）
13：00　開会挨拶：周藤芳幸（名古屋大学）
13：05～14：05　趣旨説明、基調講演：木俣元一（名古屋大学）
14：15～15：55　セッション１：起源の創出
16：10～17：50　セッション２：複製の自律性

3/31（金）

10：00～11：40　セッション３：アプロプリエーションの連鎖
12：40～14：20　セッション４：物質性と概念性のあわい
14：35～16：15　セッション５：多声性：誰にとっての真正性か
16：30～17：50　セッション６：文理融合型研究における真正性
18：00～18：30　総合討議　司会：木俣元一（名古屋大学）
18：30　閉会挨拶：梶原義実（名古屋大学）

主催：名古屋大学 人文学研究科附属 人類文化遺産テクスト学研究センター
共催：名古屋大学 最先端国際研究ユニット「文化遺産と交流史のアジア共創研究ユニット」
後援：日仏美術学会、龍谷大学 世界仏教文化研究センター

セッションの
内容

国際シンポジウム

「宗教遺産をめぐる真正性
―宗教遺産テクスト学の発展的展開―」

1 起源の創出

実際は存在せず特定することの不可能な唯一の「起源」を創出または捏造することにより、事物や伝統の真正性が作り出される事態に着目し、その虚構性を論じる。たとえばある聖堂が保有する聖遺物の由来、特定の作品に付与されるオリジナリティの根拠、作品の起源や根拠としての作者、複数の異本が存在する作品の原本、何らかの起源を説明する神話の創出、遺跡に対する起源性の付与などを具体的な事例として取り上げる。

2 複製の自律性

オリジナルとコピーの関係のもとでモデルとなった作品に従属するものとして捉えられ、モデルからの逸脱が否定的に捉えられてきた複製が、実際には自律性をそなえ、創造性や独自の価値を新たに生み出すことを論じ、複製と真正性の関係をどのように考えるべきか問い直す。たとえば美術制作における複製や借用の意義、原本となるテクストに対する異本の価値、縁起・仏舎利の系譜の再創造などに関する具体的事例を取り上げる。

3 アプロプリエーションの連鎖

美術や文学などに代表される個々の宗教遺産（作品）は、それぞれが生み出された時間や空間に基づいて、歴史という座標軸における一つの点に位置づけられるのが一般的であるが、これらの宗教遺産が実際にはアプロプリエーションの連鎖や系譜により複雑な時間性・空間性を示す点について論じる。引用や借用、物質的・概念的スポリア（再利用）、翻案、領域の横断・超克などを具体的事例として取り上げる。

4 物質性と概念性のあわい

物質的な持続性に根拠を置く真正性に対して、物質的に存在しない概念的なもの、一時的にしか存在し得なかったり、すでに存在しなくなっていたり、存在を確認することができない対象における真正性について論じる。法会や儀礼、砂絵などの非保存性や消滅を前提とするエフェメラルな事物、バーミヤーン大仏のように破壊されたモニュメント、秘仏のように物質的存在の確認を前提としない事物などを具体的事例として取り上げる。

5 多声性：誰にとっての真正性か

ある対象に対して認められてきた真正性は決して絶対的なものではなく、それを受容する個人やコミュニティ、権力や支配体制によって、またその対象について論じる言説のあり方によって、あるいは歴史の流れのなかでさまざまに変動・変容する点について論じる。文化遺産、美術や建築物・構造物の保存・修復、観光（巡礼）と信仰、記憶と歴史、宗・宗派、異端などに関わる具体的事例を取り上げる。

6 文理融合型研究における真正性

３Ｄデータの解析やビッグデータのＡＩによる分類・識別、あるいは化学分析やDNAに基づく分類など、科学技術を駆使した文理融合型研究が切り開く真正性のあり方と方向性について論じる。３ＤとＡＩによる解析がもたらす真正性とはなにか、科学技術を駆使した様式論の有用性と汎用性、文系諸学の知見を理系の知による統合・再解釈を通じて得られる真正性の議論等について、具体的事例を取り上げる。

プログラム

3/30（木）

総合司会：梶原義実（名古屋大学）

13：00　開会挨拶：周藤芳幸（名古屋大学）
13：05〜14：05　趣旨説明、基調講演：木俣元一（名古屋大学）

1 起源の創出　司会：阿部泰郎

14:15〜14:35　梶原義実（名古屋大学）
「日本古代における首長権の「真正性」と宗教モニュメントの造営
―「古墳から寺院へ」を再検討する―」

14:35〜14:55　阿部泰郎（龍谷大学）
「聖徳太子前世所持法華経の創成―伝記と聖遺物聖典テクストの創造― 」

14:55〜15:15　太田泉フロランス（東京大学）
「聖遺物の創出―キリスト教中世における聖性付与の諸相―」

15:15〜15:35　中根若恵（南カリフォルニア大学）
「エッセイ映画の作者性―原将人『初国知所之天皇』（1973）における
「起源」の創出― 」

15:35〜15:55　質疑応答、討論

2 複製の自律性　司会：杉山美耶子

16:10〜16:30　芳賀京子（東京大学）
「神像の複製と信仰―古代ギリシアの場合―」

16:30〜16:50　西谷功（花園大学）
「〈真正〉仏牙舎利の成立と展開」

16:50〜17:10　大橋直義（実践女子大学）
「巡礼とその縁起―西国順礼縁起を基点として―」

17:10〜17:30　杉山美耶子（名古屋大学）
「16世紀初頭のブリュージュ画派における聖母子像の共有と変容」

17:30〜17:50　質疑応答、討議

3/31（金）

3 アプロプリエーションの連鎖　司会：木俣元一

10:00〜10:20　山本聡美（早稲田大学）
「図像の生命誌―意味と形のあわい―」

10:20〜10:40　郭佳寧（国際日本文化研究センター）
「宗教儀礼テクストに展開する実践と信仰の複合性
―覚鑁撰『舎利供養式』を巡って―」

10:40〜11:00　木俣元一（名古屋大学）
「物質的／概念的スポリア」

11:00〜11:20　三浦篤（東京大学）
「マネをめぐるアプロプリエーションの連鎖」

11:20〜11:40　質疑応答、討議

プログラム

3/31（金）

4 物質性と概念性のあわい　司会：秋山聰

12:40〜13:00　猪瀬千尋（金沢大学）
「秘仏と可視・不可視」

13:00〜13:20　樋口諒（名古屋大学）
「ギリシャ・ラコニア地方イェラーキの教会堂における光の演出
―偶然か必然か？― 」

13:20〜13:40　秋山聰（東京大学）
「見えないものをいかに見せるか―比較宗教美術史の観点から― 」

13:40〜14:00　山内和也（帝京大学）
「再建されたバーミヤーンの大仏は「本物」といえるのか」

14:00〜14:20　質疑応答、討議

5 多声性：誰にとっての真正性か　司会：栗田秀法

14:35〜14:55　影山悦子（名古屋大学）
「王権の正統性を示す図像表現―イスラーム以前のイラン世界― 」

14:55〜15:15　川崎剛志（就実大学）
「祖師の事績と教団のアイデンティティ―智証大師の熊野参詣を例に―」

15:15〜15:35　栗田秀法（名古屋大学）
「美術作品の修復と真正性」

15:35〜15:55　田代亜紀子（北海道大学）
「東南アジアにおける宗教遺産とオーセンティシティ」

15:55〜16:15　質疑応答、討議

6 文理融合型研究における真正性　司会：梶原義実

16:30〜16:50　藤岡穣（大阪大学）
「仏像の基礎研究
―蛍光X線による金銅仏の成分分析からAIによる仏顔の様式分析へ―」

16:50〜17:10　冨島義幸（京都大学）
「変容する両界曼荼羅―建築空間をめぐる宗教的真正性―」

17:10〜17:30　井上隼多（名古屋大学）
「考古学における3Dデータ解析の可能性」

17:30〜17:50　質疑応答、討議

18：00〜18：30　総合討議　司会：木俣元一（名古屋大学）
18：30　閉会挨拶：梶原義実（名古屋大学）